

家でも災害に備えましょう

大きな地震などの災害がおこると、数日間、水や食料が手に入らなくなることが考えられます。

水道局の緊急貯水槽や配水池でも水をためていますが、量には限りがありますので、みなさんの家でも緊急用の飲み水をたくわえておきましょう。

水道水の保存方法

フタのできる清けつな容器に、空気が入らないよう口もといっぱいに水道水を入れ、フタをしっかり閉めてください。日のあたらないすずしいところでは3日～1週間、冷蔵庫の中では1～2週間をめやすに水を入れかえてください。

1人あたり
3リットル×最低3日分
保存しましょう!



もしも災害がおこったら

家の水がなくなったら…

- 近くの緊急貯水槽にフタのできる清けつな容器を持って行きましょう。
- 緊急貯水槽が無い地域へは、給水タンク車で水を運びます。水を配る場所や時間はホームページなどでお知らせします。



家からひなんするときは…

- 水道のじゃぐちが閉まっているか確かめてください。じゃぐちが開いたままだと、水道が使えるようになったときに、家中が水びたしになるおそれがあります。
- 冬は水道管が凍らないように、できるだけ水ぬきを行ってください。



環境にやさしい取り組み

地形を活かした施設づくり

札幌市では、住宅地より高い場所に浄水場を建てています。水が高い所から低い所へ自然に流れるのを利用して、札幌市の水道水のほとんどを送っています。これにより、水を送るために必要な電気の量を減らすことができます。



水力発電

水力発電とは、水のいきおいを利用して電気をつくるもので、藻岩浄水場と平岸配水池に水力発電の設備があります。

藻岩浄水場でつくった電気は、藻岩浄水場や水質管理センター、水道記念館などで使用しており、藻岩浄水場には水力発電でつくった電気で走る電気自動車もあります。

また、平岸配水池でつくった電気は、ほぼ全て電力会社に売っています。

ボクがめじるし目印だよ!



藻岩浄水場の電気自動車



平岸配水池の水力発電設備

太陽光発電

太陽光発電とは、太陽の光のエネルギーを電気に変えるものです。

配水センター、川治庁舎、豊平庁舎では、屋上に太陽光発電の設備を取りつけ、つくった電気はそれぞれの建物で使用しています。



配水センター屋上

自然の力を利用してよ。

